

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2017年第24週
(6月12日～6月18日)

- * 2017年6月21日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「エンテロウイルスと子供のマヒ」も掲載
しています。

平成29(2017)年6月22日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2017年24週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		21週	22週	23週	24週	年累計	24週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	58	66	71	57	1,521	336	9,980
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}								
三類	コレラ					1		1
	細菌性赤痢		1		1	19	3	68
	腸管出血性大腸菌感染症	5	2	2	5	54	73	608
	腸チフス					2		15
	パラチフス		1			3		7
四類	E型肝炎	1	1	1	2	32	4	165
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	2	3		2	44	9	145
	エキノコックス症							14
	黄熱							
	オウム病						2	8
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	ジカウイルス感染症 ^{*4}							1
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*5}						3	33
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱					1		1
つつが虫病					2	3	87	
デング熱				1	19	3	81	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4 2016年2月15日より新たに追加指定された。

*5 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		21週	22週	23週	24週	年累計	24週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						4	70
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症					1		1
	マラリア				1	6	2	15
	野兔病							
	ライム病							1
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
レジオネラ症	4	2	1		55	30	568	
レプトスピラ症					1		2	
ロッキー山紅斑熱								
2017/6/21集計								

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 57件 患者および死亡後診断 36件(肺結核 32件、その他の結核 4件)、無症状病原体保有者 21件、年齢は5歳未満 2件、10代 2件、20代 12件、30代 8件、40代 4件、50代 7件、60代 7件、70代 8件、80代 7件、推定感染地は国内 52件、バングラデシュ 1件、韓国 1件、中国 1件、国内又は国外(渡航先不明) 2件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 1件 患者、菌種はソルネ、年齢は30代、推定感染地はインド、推定感染経路は経口感染であった。

腸管出血性大腸菌感染症 5件 患者 5件、血清型・毒素型はO26 VT1 1件、O26 VT型不明 1件、O157 VT1・VT2 1件、O157 VT2 1件、血清型不明VT1 1件、年齢は10代 3件、20代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は経口感染 4件、接触感染 1件であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 2件 患者 2件、年齢は50代 2件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は経口感染 1件、不明 1件であった。

A型肝炎 2件 患者 2件、年齢は50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 1件、モロッコ 1件、推定感染経路は経口感染 2件であった。

デング熱 1件 患者、病型はデング熱、血清型は不明、年齢は20代、推定感染地はポリネシアであった。

マラリア 1件 患者、病型は卵形、年齢は30代、推定感染地はカメルーンであった。

※ 第20週該当分として〔三類〕腸管出血性大腸菌感染症 1件の追加報告があった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2017年24週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		21週	22週	23週	24週	年累計	24週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	3	5	3	9	99	12	500
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	2	1	1	1	26	3	136
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		4	3	7	89	17	655
	急性脳炎 ^{*1}		1			30	8	335
	クリプトスポリジウム症						2	7
	クロイツフェルト・ヤコブ病					7	4	85
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	5	2	2	43	12	288
	後天性免疫不全症候群	12	7	8	5	203	18	620
	ジアルジア症			1		14		31
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3			1	24	3	184
	侵襲性髄膜炎菌感染症					1		11
	侵襲性肺炎球菌感染症	8	7	8	11	250	32	1,858
	水痘(入院例に限る)	1	2		1	22	6	135
	先天性風しん症候群							
	梅毒	37	44	35	33	763	79	2,339
	播種性クリプトコックス症		1		1	10	2	67
	破傷風		1			2	3	36
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1		5	2	37
	風しん	1		1	2	11	2	46
麻しん					17	1	163	
薬剤耐性アシネトバクター感染症					1		11	

2017/6/21集計

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 9件 病型は腸管 8件、腸管外 1件、年齢は30代 2件、40代 4件、50代 2件、70代 1件、推定感染地は国内 7件、インドネシア 1件、中国 1件、推定感染経路は性的接触 4件(同性間 2件、異性間 2件)、経口感染 2件、不明 3件であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、B型肝炎ワクチン接種歴は不明であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 7件 患者 7件、病原菌はエンテロバクター・アエロゲネス 2件、エンテロバクター・クロアカ 2件、セラチア・マルセッセンス 2件、肺炎桿菌 1件、年齢は40代 1件、60代 2件、80代 4件、推定感染地は国内 7件、推定感染経路は手術部位感染 2件、医療器具関連感染 2件(中心静脈カテーテル・尿路カテーテル 1件、尿路カテーテル 1件)、以前からの保菌 1件、不明 2件、90日以内の海外渡航歴は無し 7件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2件 血清群はG群 2件、年齢は60代 2件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は創傷感染 1件(抜歯)、不明 1件であった。

後天性免疫不全症候群 5件 無症候キャリア 4件、その他 1件、性別は男性 5件、無症候キャリア及びその他の年齢は30代 4件、40代 1件、推定感染地は国内 4件、不明 1件、推定感染経路は同性間性的接触 5件であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件 血清型は検査未実施、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、ヒブワクチン接種歴は不明であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 11件 血清型はすべて検査未実施、年齢は20代 1件、40代 2件、50代 2件、60代 3件、70代 1件、90歳以上 2件、推定感染地は国内 11件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、不明 9件、肺炎球菌ワクチン接種歴は23価1回接種済み 1件、無し 5件、不明 5件であった。

水痘(入院例) 1件 検査診断例、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染、水痘ワクチン接種歴は無しであった。

梅毒 33件 患者 24件(早期顕症梅毒Ⅰ期 8件、早期顕症梅毒Ⅱ期 16件)、無症候梅毒 9件、性別は男性 21件、女性 12件、年齢は20代 8件、30代 13件、40代 3件、50代 6件、60代 2件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 32件、タイ 1件、推定感染経路は性的接触 31件(同性間 11件、異性間 14件、性別不明 6件)、不明 2件であった。

播種性クリプトコックス症 1件 患者、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染原因は免疫不全(多発性硬化症のため薬剤内服中)であった。

風しん 2件 検査診断例 1件、臨床診断例 1件、年齢は5歳未満 1件、20代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は不明 2件、風しん含有ワクチン接種歴は1回接種済み 1件、不明 1件であった。

※ 第23週該当分として〔五類〕梅毒 4件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2017年24週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2017年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		21週	22週	23週	24週		
小児科	RSウイルス感染症	56 0.21	63 0.24	59 0.23	62 0.24	263	264
	咽頭結膜熱	212 0.81	286 1.09	303 1.16	289 1.10		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	847 3.25	858 3.26	879 3.35	958 3.64		
	感染性胃腸炎	2,022 7.75	1,939 7.37	1,841 7.03	1,920 7.30		
	水痘	157 0.60	134 0.51	104 0.40	118 0.45		
	手足口病	143 0.55	222 0.84	267 1.02	362 1.38		
	伝染性紅斑	36 0.14	41 0.16	33 0.13	33 0.13		
	突発性発しん	181 0.69	202 0.77	168 0.64	174 0.66		
	百日咳	1 0.00	1 0.00	3 0.01	4 0.02		
	ヘルパンギーナ	26 0.10	39 0.15	70 0.27	83 0.32		
	流行性耳下腺炎	45 0.17	65 0.25	59 0.23	63 0.24		
	川崎病 ^{*1}	5 0.02	6 0.02	1 0.00	1 0.00		
	不明発しん症 ^{*1}	18 0.07	38 0.14	14 0.05	20 0.08		
	インフル エンザ	インフルエンザ ^{*2}	123 0.30	48 0.12	26 0.06		
眼科	急性出血性結膜炎	1 0.03				39	39
	流行性角結膜炎	31 0.79	34 0.87	44 1.13	23 0.59		
基幹	細菌性髄膜炎 ^{*3}		1 0.04			25	25
	無菌性髄膜炎	1 0.04	1 0.04	1 0.04			
	マイコプラズマ肺炎	2 0.08	3 0.12		4 0.16		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		1 0.04	2 0.08	1 0.04		
	感染性胃腸炎(ロタウイルス) ^{*4}	7 0.28	3 0.12	5 0.20	5 0.20		
	インフルエンザ入院	1 0.04					
2017/6/21集計							

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・咽頭結膜熱の定点当たり報告数は例年よりも高いレベルで推移しています。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、手足口病は一部地域で報告数の増加が見られ、今後の動向に注意が必要です。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2017年24週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	5	2	1	22		2		1		4	
6～11か月	21	27	10	161	2	37	3	57		12	
1歳	26	105	61	331	6	142	5	93	1	27	1
2歳	7	32	53	214	6	68	2	20		14	
3歳	3	34	97	197	12	35	1	2		10	10
4歳		35	141	170	7	31	2			6	8
5歳		17	128	110	16	18	13		1	6	5
6歳		7	121	105	16	13	5			2	8
7歳		7	89	111	11	3				1	11
8歳		5	69	81	11	6	1		1		9
9歳		6	55	59	7	3		1			2
10～14歳		3	75	173	22	3	1		1		7
15～19歳		3	3	39	1						
20～29歳		6	55	147	1	1				1	2
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	62	289	958	1,920	118	362	33	174	4	83	63
先週比	3	-14	79	79	14	95		6	1	13	4

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月		1									
6～11か月	1	5			1						
1歳		6			3					2	
2歳		1			1						
3歳					1			1		2	
4歳		4			1			1			
5歳											
6歳			2								
7歳			3							1	
8歳		1	1		1						
9歳			2								
10～14歳		2	3								
15～19歳			4						1		
20～29歳			1		4						
30～39歳			2		6			1			
40～49歳			4		3			1			
50～59歳			2								
60～69歳			2		1						
70～79歳					1						
80歳以上			1								
合計	1	20	27		23			4	1	5	
先週比		6	1		-21		-1	4	-1		

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2017年24週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				1.00							
中央区	1.00	0.67	2.33	12.67		2.33	0.67	1.33			
みなと	0.17	1.50	2.83	3.83	0.17	2.83	0.33	0.33			1.17
新宿区	0.50	0.13	3.25	5.25	0.38	1.13		0.75		1.00	0.13
文京		0.50	6.00	3.50	0.75	1.75		1.25			0.25
台東	0.25	3.50	2.50	13.75	0.75	1.00		0.50			0.25
墨田区	0.80	0.80	1.40	4.80	0.20	1.40	0.20	0.80		1.60	
江東区	0.56	0.33	4.11	12.67	0.33	0.44	0.22	0.67			0.11
品川区	0.38	0.75	2.13	6.50	0.63	2.38	0.13	0.88			0.38
目黒区	0.80	0.80	2.00	6.80	1.40	3.00	0.60	0.60			
大田区	0.54	1.85	5.69	10.85	0.31	1.62	0.23	0.62		0.38	0.38
世田谷	0.31	1.13	6.94	7.25	0.50	2.31	0.19	0.19		0.88	0.19
渋谷区	0.25	0.25	0.25	3.50	0.50	1.25	0.25	0.50		0.75	
中野区		4.00	4.33	4.00	1.17	0.83		2.33		0.17	0.33
杉並	0.09	1.09	2.55	5.00	0.45	0.91	0.27	0.73		0.09	
池袋	0.50		0.25	2.75	0.25	0.25		0.25		0.25	
北区		0.29	2.14	9.14		7.57		0.86		0.71	
荒川区	1.00	4.25	6.25	1.50		1.00		0.75		0.75	
板橋区		0.60	1.00	3.10	0.10	1.10		0.30			0.20
練馬区		0.69	6.00	6.38	0.92	1.31	0.08	0.69	0.23	0.23	0.38
足立	0.31	1.85	2.31	5.00	0.46	1.08		1.15		0.38	
葛飾区		0.50	2.25	10.75	0.38	1.50		0.75		0.38	
江戸川		1.33	3.33	8.67	0.58	1.50	0.08	0.50		0.33	0.33
八王子市	0.55	0.91	4.73	11.45	0.64	0.82	0.09	1.09		0.27	0.45
町田市		0.75	6.25	14.50	0.50	0.88		0.38		0.38	1.25
西多摩		0.63	2.00	3.75	0.38	0.38				0.25	0.25
南多摩	0.11	1.33	3.00	9.89		0.22		0.33		0.11	0.22
多摩立川		0.21	4.07	5.00	0.36	0.43	0.21	0.29		0.14	0.21
多摩府中	0.19	1.00	2.62	5.95	0.33	0.33	0.19	0.71		0.19	0.24
多摩小平	0.13	1.80	5.93	11.00	0.67	2.07	0.13	0.93	0.07	0.27	0.07
島しょ		3.00									
東京都	0.24	1.10	3.64	7.30	0.45	1.38	0.13	0.66	0.02	0.32	0.24

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田											
中央区					1.00						
みなと	0.17							1.00			
新宿区		0.38						1.00		0.50	
文京											
台東			0.14								
墨田区					2.00						
江東区											
品川区		0.25	0.08								
目黒区		0.20									
大田区		0.15			1.00						
世田谷		0.06	0.08		0.50						
渋谷区		0.25			3.00					1.00	
中野区			0.10								
杉並			0.12		1.00					0.50	
池袋			0.14								
北区		0.14			1.00						
荒川区			0.29		2.00						
板橋区		0.10									
練馬区		0.08	0.14		1.00						
足立											
葛飾区											
江戸川			0.47		0.50						
八王子市		0.09	0.11		0.50						
町田市		0.13	0.08								
西多摩											
南多摩											
多摩立川			0.10		0.50						
多摩府中		0.19	0.03		0.33				0.33	0.33	
多摩小平		0.07			2.00			0.50		0.50	
島しょ											

東京都	0.00	0.08	0.07		0.59			0.16	0.04	0.20	
-----	------	------	------	--	------	--	--	------	------	------	--

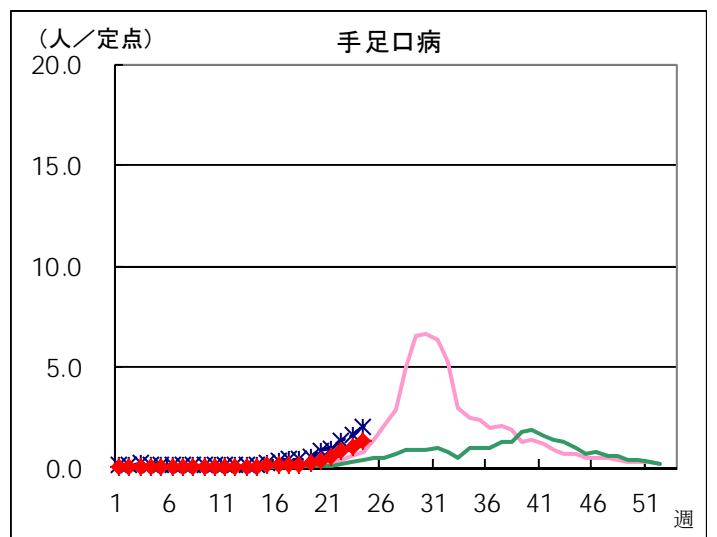
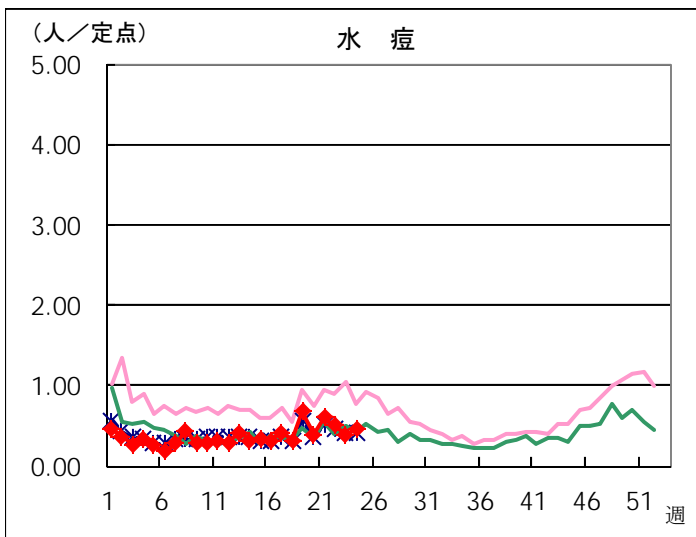
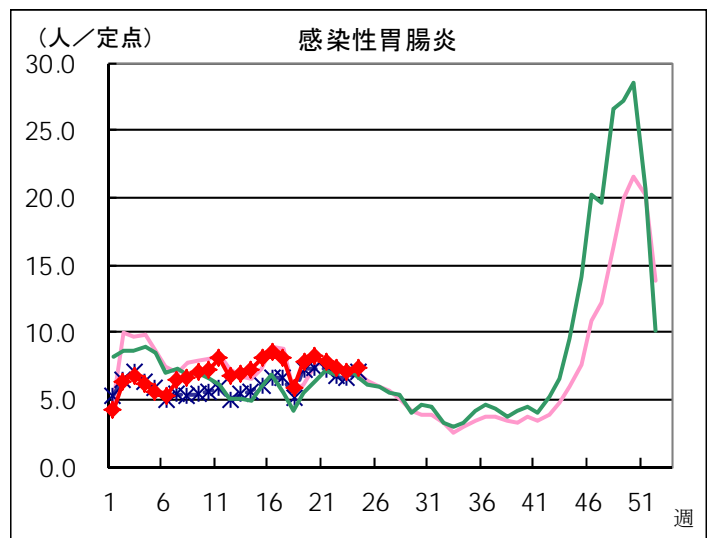
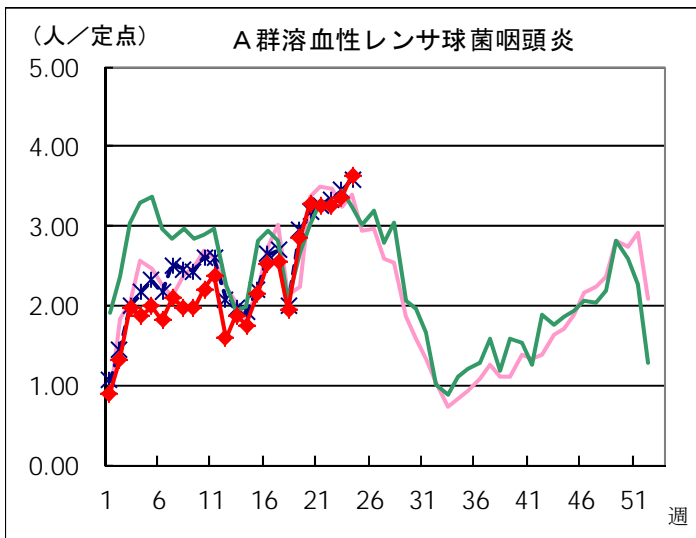
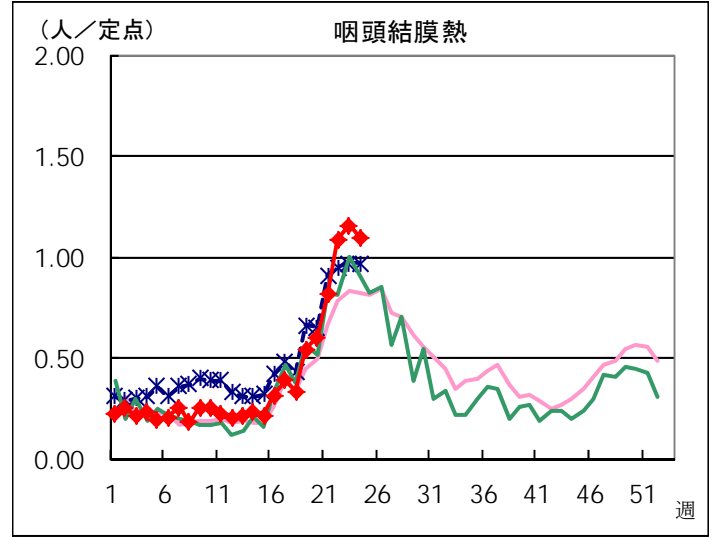
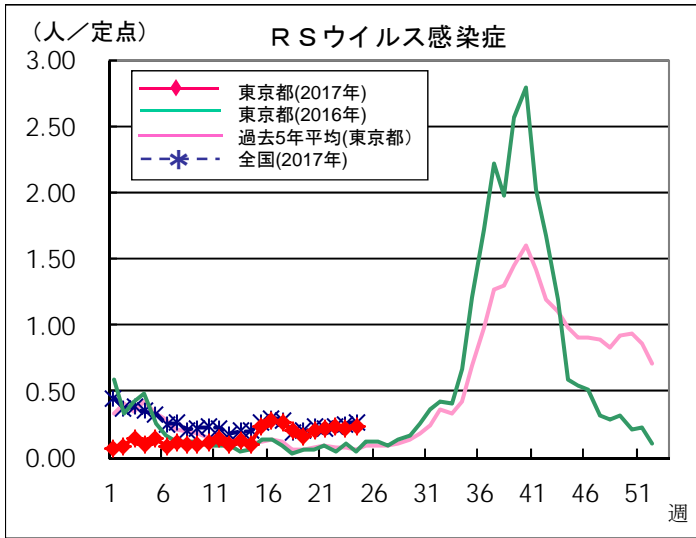
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2017年24週

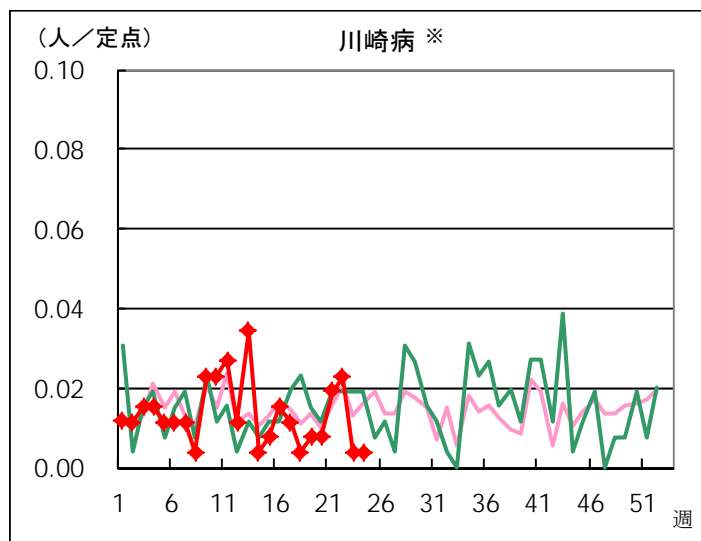
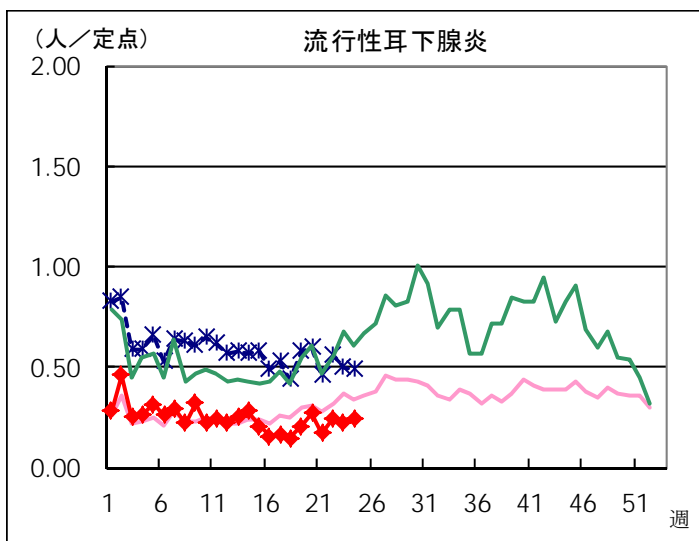
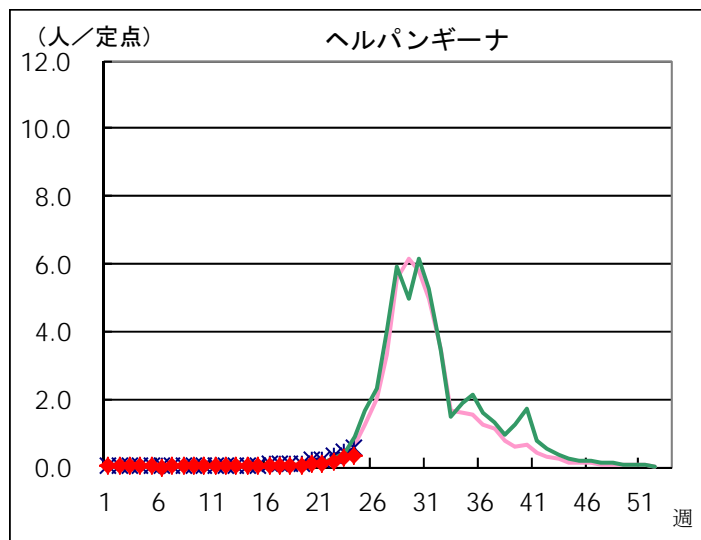
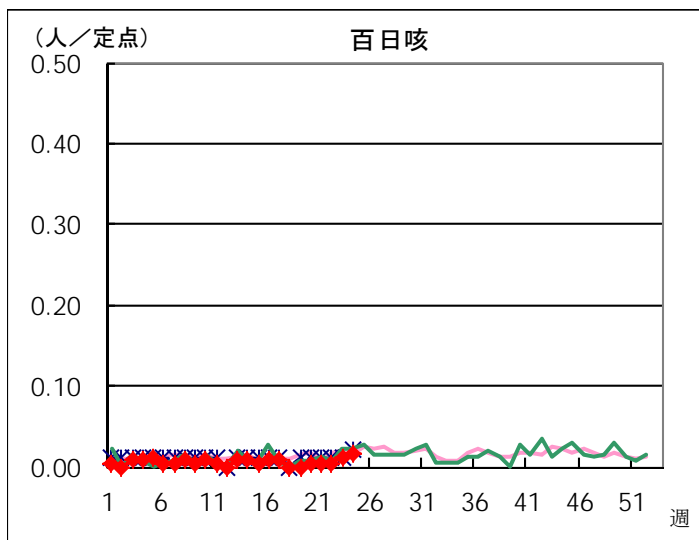
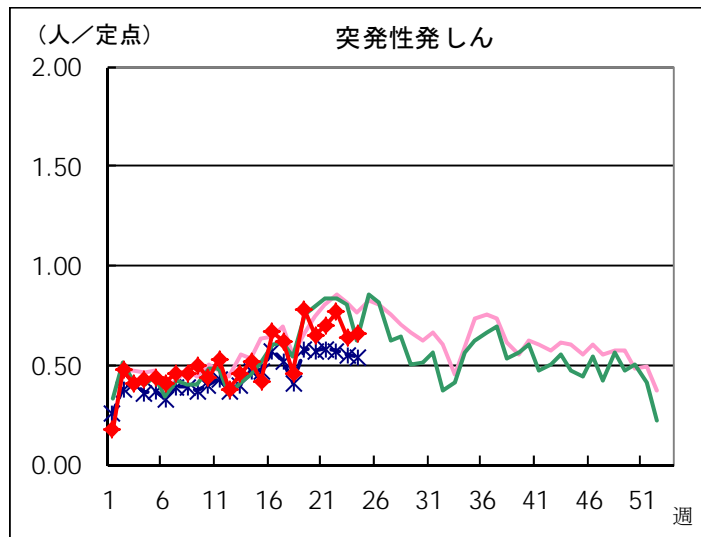
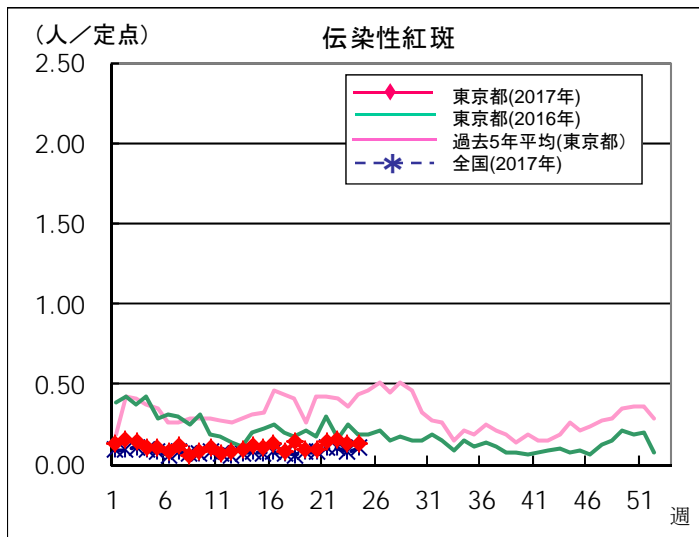
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				3							
中央区	3	2	7	38		7	2	4			
みなと	1	9	17	23	1	17	2	2			7
新宿区	4	1	26	42	3	9		6		8	1
文京		2	24	14	3	7		5			1
台東	1	14	10	55	3	4		2			1
墨田区	4	4	7	24	1	7	1	4		8	
江東区	5	3	37	114	3	4	2	6			1
品川区	3	6	17	52	5	19	1	7			3
目黒区	4	4	10	34	7	15	3	3			
大田区	7	24	74	141	4	21	3	8		5	5
世田谷	5	18	111	116	8	37	3	3		14	3
渋谷区	1	1	1	14	2	5	1	2		3	
中野区		24	26	24	7	5		14		1	2
杉並	1	12	28	55	5	10	3	8		1	
池袋	2		1	11	1	1		1		1	
北区		2	15	64		53		6		5	
荒川区	4	17	25	6		4		3		3	
板橋区		6	10	31	1	11		3			2
練馬区		9	78	83	12	17	1	9	3	3	5
足立	4	24	30	65	6	14		15		5	
葛飾区		4	18	86	3	12		6		3	
江戸川		16	40	104	7	18	1	6		4	4
八王子市	6	10	52	126	7	9	1	12		3	5
町田市		6	50	116	4	7		3		3	10
西多摩		5	16	30	3	3				2	2
南多摩	1	12	27	89		2		3		1	2
多摩立川		3	57	70	5	6	3	4		2	3
多摩府中	4	21	55	125	7	7	4	15		4	5
多摩小平	2	27	89	165	10	31	2	14	1	4	1
島しょ		3									
東京都合計	62	289	958	1,920	118	362	33	174	4	83	63

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田											
中央区					1						
みなと	1							1			
新宿区		3						2		1	
文京											
台東			1								
墨田区					2						
江東区											
品川区		2	1								
目黒区		1									
大田区		2			2						
世田谷		1	2		1						
渋谷区		1			3					1	
中野区			1								
杉並			2		1					1	
池袋			1								
北区		1			1						
荒川区			2		2						
板橋区		1									
練馬区		1	3		2						
足立											
葛飾区											
江戸川			8		1						
八王子市		1	2		1						
町田市		1	1								
西多摩											
南多摩											
多摩立川			2		1						
多摩府中		4	1		1				1	1	
多摩小平		1			4			1		1	
島しょ											
東京都合計	1	20	27		23			4	1	5	

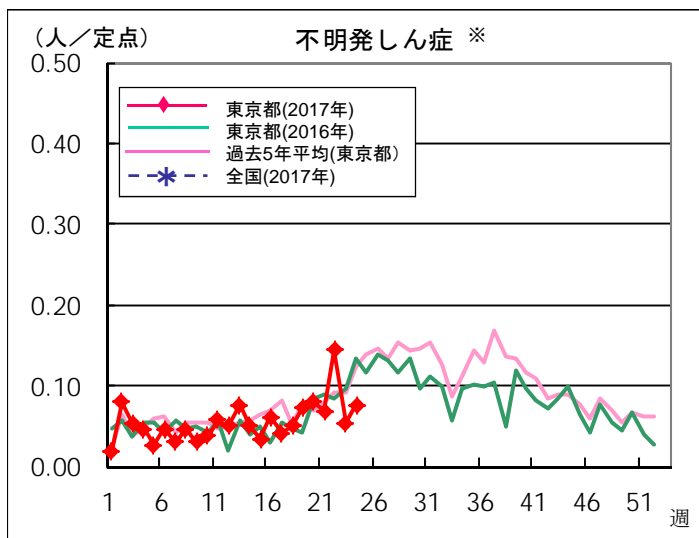
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2017年24週 現在)

◆ 小児科定点



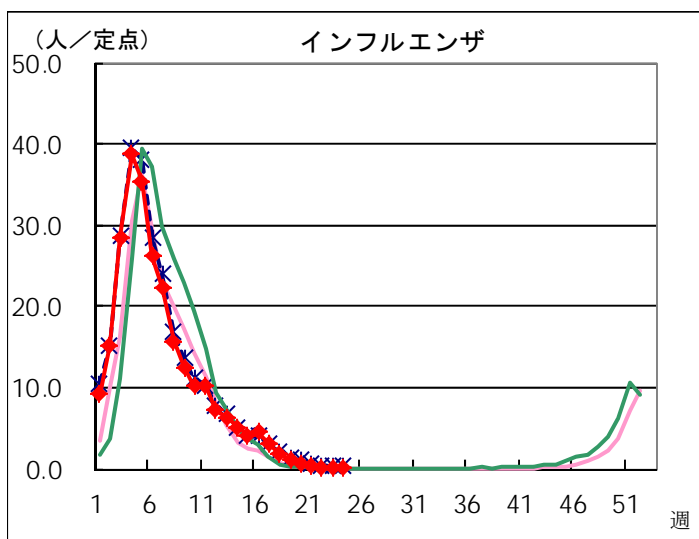


※ 東京都独自対象疾患

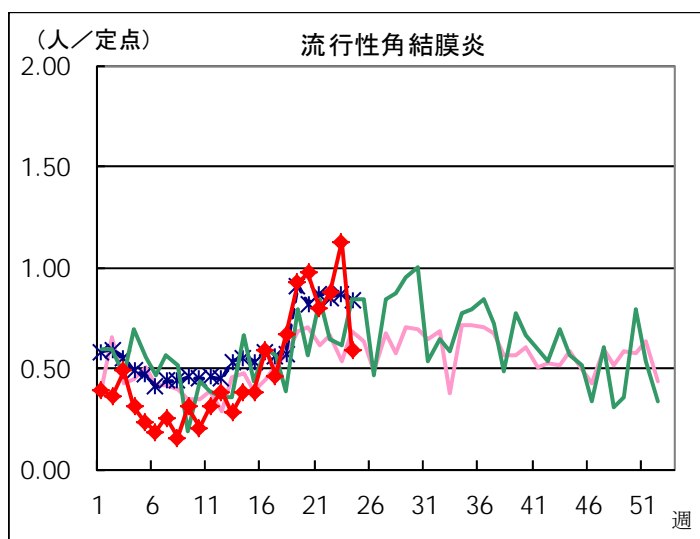
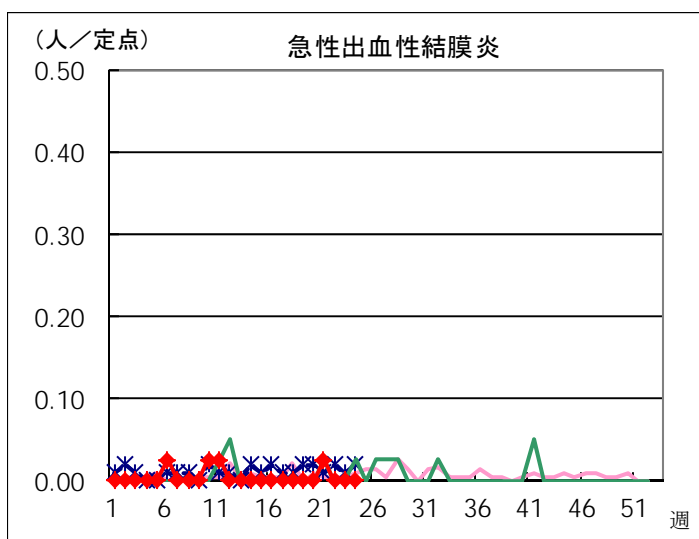


※ 東京都独自対象疾患

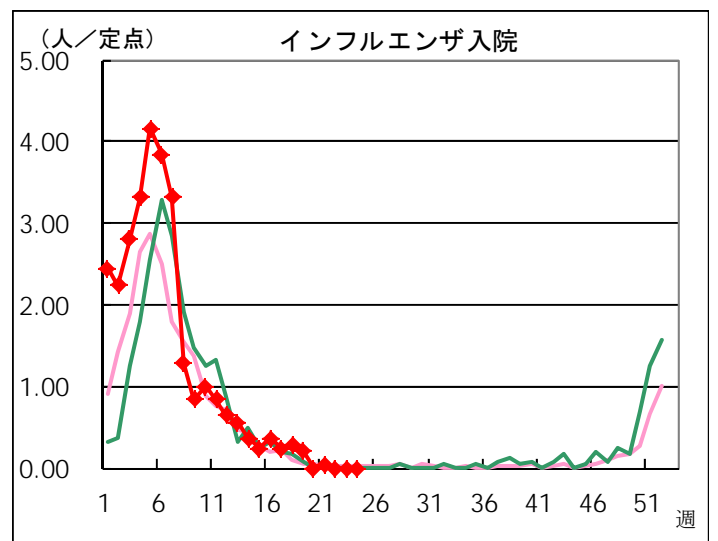
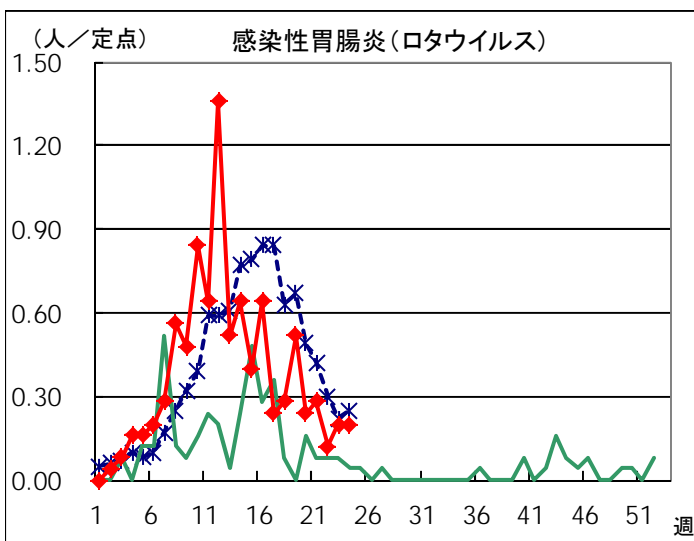
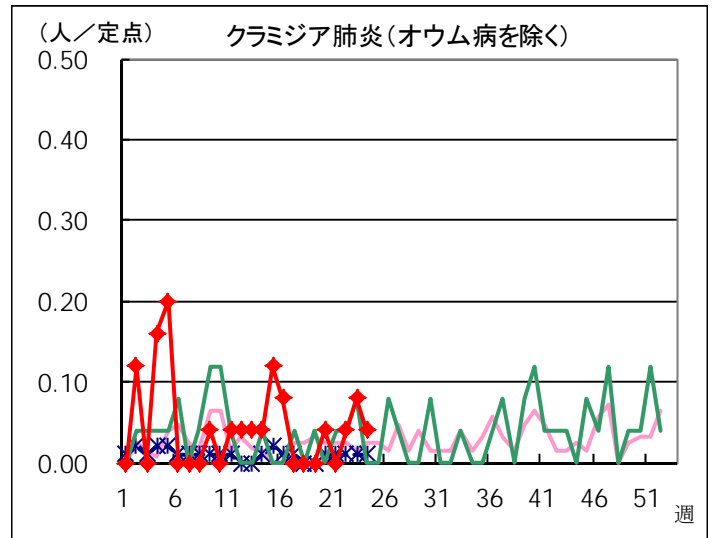
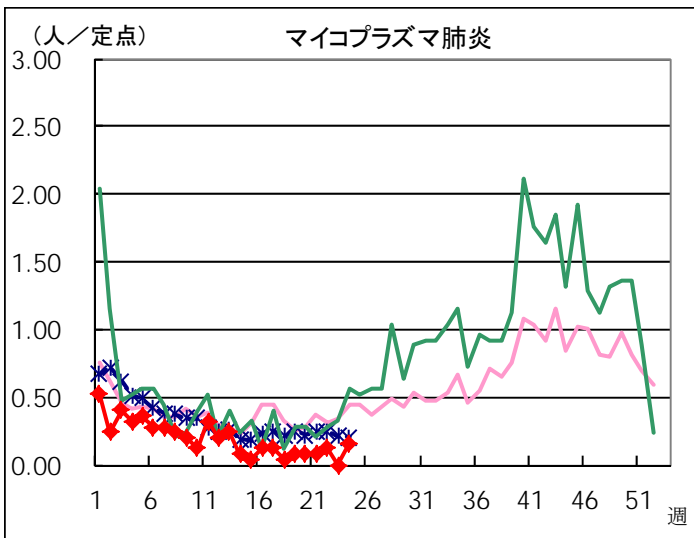
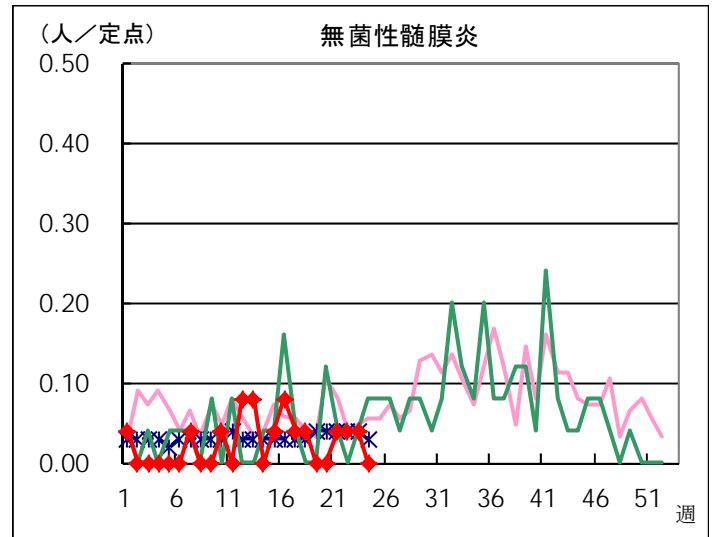
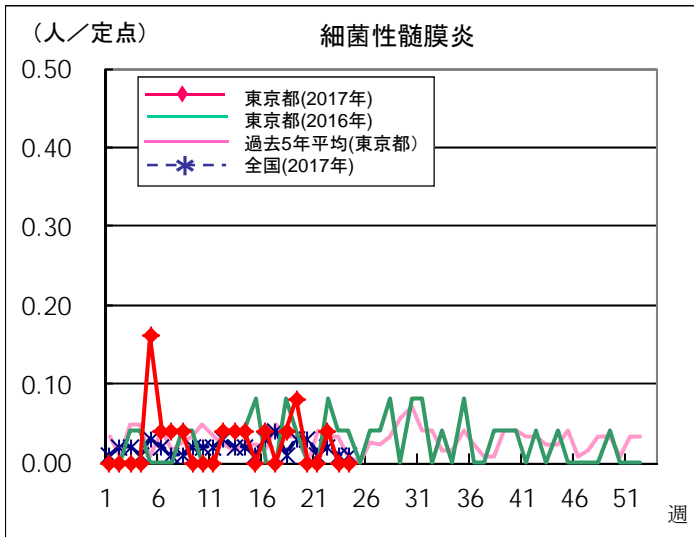
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
5/12	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-12型
5/23	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-12型
5/24	手足口病	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス71
5/25	感染性胃腸炎	9	直腸拭い液	サポウイルス
5/26	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-12型
5/26	咽頭結膜熱	1	咽頭拭い液	アデノウイルス2型
5/26	咽頭結膜熱	2	咽頭拭い液	アデノウイルス2型
5/26	不明発しん症	14	咽頭拭い液	ライノウイルス
5/27	咽頭結膜熱	1	咽頭拭い液	アデノウイルス2型
5/27	感染性胃腸炎	5	直腸拭い液	A群ロタウイルス
5/29	手足口病	9M	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
5/30	ヘルパンギーナ	9M	咽頭拭い液	アデノウイルス2型 ライノウイルス
5/30	流行性耳下腺炎	1	咽頭拭い液	ムンプスウイルス
5/31	感染性胃腸炎	2	便	ノロウイルスG II
5/31	感染性胃腸炎	10	便	アストロウイルス
6/1	RSウイルス感染症	3	咽頭拭い液	RSウイルスA型
6/1	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2017年22週				1
2016-2017年 シーズン累計*	7		303	111

* 2016-2017年シーズンの開始は第36週(2016年9月5日～)

病原体検出情報【週別】

検出病原体	2017年							
	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週
アデノウイルス		2	3		1	1	2	4
コクサッキーウイルスA群						1	2	2
コクサッキーウイルスB群								
エコーウイルス								
エンテロウイルス71						1	2	1
その他のエンテロウイルス								
ライノウイルス		1	2		1	1		2
ヒトメタニューモウイルス		1	1					
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス		1		1			1	
ヒトヘルペスウイルス6型・7型	1		3	1	1	4	3	
EBウイルス								
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス	3		2			2		1
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)								
風疹ウイルス								
ヒトパルボウイルスB19		1	1			1		
RSウイルス			1		1		1	1
ノロウイルス			1					1
ロタウイルス	2	4	2		1	1	2	1
サポウイルス								1
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型	2	3	2		2	1		
インフルエンザウイルスB型	7	13	12	2	9	3	2	1
インフルエンザウイルスAH1pdm09		2						
その他のウイルス								1
A群溶血性レンサ球菌T-1型								
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型	1	1						
A群溶血性レンサ球菌T-12型					1		1	2
A群溶血性レンサ球菌T-25型		1			1			
A群溶血性レンサ球菌T-28型	1							
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型	1							
A群溶血性レンサ球菌その他のT型		1						
A群溶血性レンサ球菌T型別不能								
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ						1		
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

病原体検出情報【臨床診断名別】

2017年15週～2017年22週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	6	8	11	27	6	9	3	8	2	3	15	1	19	64	7		2		6	2	
アデノウイルス		8								1					2		2				
コクサッキーウイルスA群						4				1											
コクサッキーウイルスB群																					
エコーウイルス																					
エンテロウイルス71						4															
その他のエンテロウイルス																					
ライノウイルス	1	1								1			2	2							
ヒメタニューモウイルス	2																				
単純ヘルペスウイルス																					
水痘・帯状疱疹ウイルス					3																
ヒトヘルペスウイルス6型・7型								8					5								
EBウイルス																					
サイトメガロウイルス																					
ムンプスウイルス											8										
麻疹ウイルス																					
麻疹A型(ワクチンタイプ)																					
風疹ウイルス																					
ヒトパルボウイルスB19							1						2								
RSウイルス	4																				
ノロウイルス				2																	
ロタウイルス				13																	
サボウイルス				1																	
インフルエンザウイルスAH1亜型																					
インフルエンザウイルスAH3亜型															10						
インフルエンザウイルスB型															49						
インフルエンザウイルスAH1pdm09															2						
その他のウイルス				1																	
A群溶血性レンサ球菌T-1型																					
A群溶血性レンサ球菌T-3型																					
A群溶血性レンサ球菌T-4型				2																	
A群溶血性レンサ球菌T-12型				4																	
A群溶血性レンサ球菌T-25型				2																	
A群溶血性レンサ球菌T-28型				1																	
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型				1																	
A群溶血性レンサ球菌その他のT型				1																	
A群溶血性レンサ球菌T型別不能																					
百日咳菌																					
肺炎マイコプラズマ																					1
肺炎クラミジア																					
髄膜炎菌																					
B群レンサ球菌																					
肺炎球菌																					
インフルエンザ菌																					
黄色ブドウ球菌																					
大腸菌																					
その他の細菌																					
その他の病原体																					

<感染症豆知識>

エンテロウイルスと子供のマヒ

エンテロウイルス (EV) は手足口病やヘルパンギーナ等子供の夏風邪の代表的ウイルスで、ピコルナウイルス科に属しエンベロープを持たない一本鎖 RNA ウイルスである。塩基配列分類ではヒトに感染するのは A~D の 4 種で、ポリオ、EV、コクサッキー A と B、エコーなど 100 種類以上の血清型がある。感染しても軽症か不顕性感染が多いが、無菌性髄膜炎、脳炎等の中枢神経系感染や弛緩性麻痺を起すことがある。EV は一般に腸管で増殖し、便から検出される。

子供に麻痺を生ずる EV は 10 種余りあるが、特に小児麻痺の代名であるポリオ、手足口病の原因である EV-71 と、近年最も話題になり麻痺に関連しているとされる EV-D68 がある。ポリオと EV-71 はワクチンが開発され、ポリオはポリオ根絶事業により世界的根絶も近い。また EV-71 は 2015 年に中国が世界初の不活化 EV71 ワクチンを開発し、日本で現在開発を進めている。

EV-D68 は 2014 年 8 月に米国で重症呼吸器症状を伴う大流行があり、その後弛緩性麻痺を生ずる症例が報告され全世界の注目を集めた。我が国でも 2005~2015 年に 538 例検出され、2015 年には 258 例の大流行があった。髄膜炎等の神経症状は 26 例で、うち弛緩性麻痺は小児 4 例であった。麻痺は 3~9 病日に生じ、予後は不良で回復は難しい。EV-D68 は、酸に弱く低温で分離されやすいため咽頭拭い液による検出が有効であるが、麻痺例の咽頭拭い液から検出されても髄液から分離されていないため、まだ原因ウイルスと確定されていない。現在、CDC や我が国で AFM (急性弛緩性脊髄炎) サーベイランスを行い原因究明を急いでいる。ワクチンや根本治療法はなく対症療法である。予防は流水と石鹸による手洗い、マスク、塩素系消毒剤による物品の消毒等である。

EV の病態は多彩で重症化もあるので、流行に備え、感染動向を注視し、早期発見、感染防止に努めることが大切である。

(文責 くろさわ子ども&内科クリニック (北多摩医師会 東京小児科医会) 黒澤サト子)

※感染症情報センターより

23 週現在、手足口病は一部地域で患者の増加がみられます。ヘルパンギーナの大きな流行は見られません。病原体サーベイランスでは、手足口病患者よりコクサッキーウイルス A 群 6 型、エンテロウイルス 71 が、ヘルパンギーナ患者からコクサッキーウイルス A 群 4 型が検出されています。

現在までに急性弛緩性マヒの合併報告はありません。